

STAGE+を楽しむ(172)(HP 収載)
—クライバーのシュトラウス 2 世こうもり—

1. 始めに

前報(171)に引き続き、STAGE+のクライバーのヨハン・シュトラウス 2 世のこうもりの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はクライバーのヨハン・シュトラウス 2 世のこうもりの演奏を選びました。

クライバーが豪華な舞台演出と共に描き出す「こうもり」

バイエルン国立管弦楽団

収録日: 1986 年 12 月 31 日

伝説的指揮者であるカラヤンをして「正真正銘の天才」と言わしめた、20 世紀最高の指揮者のひとりであるカルロス・クライバー。徹底的な完璧主義を貫いた彼は入念に楽譜を読み込み、緻密なリハーサルを行い、鮮やかなステージを作り出していました。そんな彼の録音や映像は非常に少ないのですが、その中でも傑作のひとつがこの「こうもり」です。エレガントでありながら躍動的な音楽運びにのせて、ヴェヒターやファスベンダーたち名歌手が美しい歌唱とコミカルな演技で魅了します。回転舞台を使った演出にも注目です。

ソリスト:

エーベルハルト・ヴェヒター (バリトン)、イヴァン・ウンガー (演技・歌唱)、ベンノ・クシェ (バリトン)、フェリー・グルーバー (テノール)、パメラ・コバーン (ソプラノ)、イレーネ・シュタインバイサー (演技・歌唱)、ブリギッテ・ファスベンダー (アルト)、ヴォルフガング・ブレンデル (バリトン)、ジャネット・ペリー (ソプラノ)、ヨゼフ・ホップファーヴィーザー (テノール)、フランツ・ムクセネーダー (演技・歌唱)

演奏:

バイエルン国立歌劇場合唱団、バイエルン国立管弦楽団、Ballett der Bayerischen Staatsoper

指揮:

カルロス・クライバー

曲目:

ヨハン・シュトラウス 2 世 《こうもり》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

クライバーは登場時から盛んな歓声を浴びており、序曲も躍動的でこれから始まるオペラへの期待を呼び覚まします。

収録は1986年ですが、音質のきめ細かさはないものの、練達のソリスト達の歌唱は秀逸であり、オーケストラとの息もぴったりです。また、ソリスト達の歌唱や台詞の定位や歌唱の抑揚もよく捉えられています。

第2幕ではポルカ「雷鳴と稲妻」が挿入されており、クライバーのダイナミックな指揮とともに出演者総出の陽気で迫力のある踊りが展開され、なによりクライバー自身が楽しそうに指揮しています。







4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、クライバーのダイナミックな名演奏とソリスト達の伸びのある迫力ある歌唱が味わえました。

以上